

《第 1 回川崎市民間活用推進委員会》

P P P + α の考え方について		委員	ページ
1	これまでの効率性をめざす民間活用との違いが曖昧な部分がある。プラス α の部分を具体的に示す必要がある。	川崎委員 保井委員	P12~

民間活用の範囲等について		委員	ページ
1	どの分野、事業までを川崎市の P P P に入れるのかを示す必要がある。	川崎委員 保井委員	P15~
2	連携の対象範囲の定め方が重要である。	足立委員	P12~
3	ソフト面での取組を取り入れていくことも論点としてある。	安登会長	P12~

制度等変化への対応の考え方について		委員	ページ
1	民間との連携に係る法制度は今後も変化が想定されるため、その辺の変化への対応を考えておくべきである。	保井委員	P15~

関連する他の委員会等との関係性について		委員	ページ
1	関連する委員会や指針など、他の政策等との関係を整理していただきたい。	保井委員	P22~

知的財産の取り扱いについて		委員	ページ
1	アイデアに対する評価を考えなければ民間は参加しづらいため、対応を考える必要がある。	川崎委員	P43
2	知的財産などの情報管理の考え方を整理すべきである。	伊藤委員	P50

P P P プラットフォームの取組について		委員	ページ
1	市のどのような課題解決に向けて、プラットフォームを活用していくのか、その制度設計が重要である。	川崎委員 足立委員	P46~

《第 2 回川崎市民間活用推進委員会》

全般		委員	ページ
1	資産マネジメントについての課題認識について触れておく必要がある。	足立委員	P8 他

民間活用の対象範囲等について		委員	ページ
1	ソフト事業の適用例について再整理が必要。	伊藤委員	P16
2	P F I 以外においても定量的な評価が必要	安登会長	P25~

市内事業者の参加促進等に係る方策		委員	ページ
1	地域の中小企業の育成的な視点や地元ならではの価値を踏まえて取組を進めていただきたい。	川崎委員	P33~

P P P プラットフォームの取組について		委員	ページ
1	川崎市の民間活用の方向性を踏まえて、プラットフォームについても幅広いレンジで取り組んでいく必要がある。	足立委員	P46~
2	プラス α の取組につなげるためには、ソフト事業への展開が必要である。	川崎委員	P46~

《第 3 回川崎市民間活用推進委員会》

優先的検討の考え方について		委員	ページ
1	多目的化・複合化の可能性検討の段階からプラットフォームなどを活用して民間の意見を聞くことが効果的である	川崎委員 保井委員	P28 P32 P48~
2	創意工夫の余地が限定的であっても、常に価値の向上をめざすことが必要である。	保井委員	P27
3	指定管理者制度を既に導入している施設こそ、今後の維持管理・運営の適正化など、より最適な手法を考えることができる。既に民間活用を行っているものについても、漏れがなく検討ができる仕組みがあると良い。	足立委員	P26

民間提案制度について		委員	ページ
1	あらゆる分野を対象とする民間提案制度として整理すると分かりづらくなる可能性があるため、分野別の出し方など工夫があると良い	足立委員	P40
2	提案を受ける際の要件として、対処療法的な課題の解決だけではなく、「将来に向けての価値向上」の視点を入れるべきである	保井委員	P39
3	地元企業からの提案を引き出す際には、評価基準の重点ポイントが示されると分かりやすい	伊藤委員	P39

モニタリング方法・体制の再構築について		委員	ページ
1	P F I など事業期間が長期にわたるものについては、所期の効果、想定外の効果・課題などを中間的に見ていくことも必要である。	足立委員 川崎委員	P55 P58
2	レビューの実施結果の活かし方について記載が必要である。	伊藤委員	P54
3	事業実施期間中においても、モニタリングをしながら改善を図るという視点があると良い	保井委員	P54